

近世鎌倉絵図の描写にみる観光対象および旅行者の空間認識の変容に関する研究

日本大学 正会員 ○押田 佳子
 日本大学 正会員 天野 光一
 日本大学 非会員 飯塚 陽生

1. 目的

鎌倉は江戸時代以降の街道の整備と社会的安定の結果、近世観光の要所となった都市である。当初は支配者層の参勤交代における立ち寄り拠点であったが、19世紀には庶民層の「大山参詣」における通過地点として賑わいを見せるようになった¹⁾。「鎌倉絵図」は観光客の増加に伴い、案内図として木版摺りされたものであり、少なくとも50版以上の存在が確認されている。絵図に描写された情報は、旅行者が辿る名所・旧跡の位置関係に加え、空間認識を行う上で必要な景観要素を読み取る上で重要な資料であったと考えられる²⁾。

以上の考えのもと、本稿では鎌倉絵図のうち、鶴岡八幡宮の監修を受けて地元の版元より出版された「縦図」に着目し、その描写の読み取りより、近世鎌倉観光における観光対象および旅行者の空間認識の変容状況を把握することを目的とする。

2. 鎌倉絵図

鎌倉絵図はその形態より「縦図」と「横図」の2種に分けられる。近世の発行の鎌倉絵図のうち現存する大半は「縦図」であり、刊行年・板元に係らず、縦59～67cm、横41～48cmの矩形に鎌倉十三ヶ村に散在する名所旧蹟、社寺等を描き込み、中央に大きく鶴岡八幡宮を付す特徴を有している²⁾。本研究では、江戸期に刊行された縦図のうち版元、刊行時期の異なる4枚を用い、描写内容の読み取りを行った(表-1)。

3. 観光対象の描写変化

鎌倉絵図より抽出した名所・旧跡などを表-2に示す。4枚の絵図より抽出した名所・旧跡は全部で56件であり、いずれの絵図も南側に海面、北側、東側、西側に山並みを描写し、鎌倉をとりまく環境を概略的に示していた。絵図ごとの名所・旧跡の描写状況をみると、第11および第18鎌倉絵図(以下、第11図、第18図)が43件と最多であった。全ての絵図において描写がみられたのは、鶴岡八幡宮(八幡宮、二王門など6件)、大仏の他に鎌倉五山や光明寺などの有名社寺、十六の井や鉄の井、扇井といった井戸、扇が谷、海岸(2件)の23件であった。

表-2より、鎌倉絵図の描写変化に着目すると、鶴岡八幡宮境内の社殿の描写は、版を追うごとに詳細になる傾向がみられた。例えば、第7、8図における大銀杏は、かろうじて樹木であることが分かる程度であったのが、第11、18図では葉の形状が分かるほどに大きく、かつ詳細に描かれるようになった。

海岸に着目すると、第7図(図-1)では海岸線が現在の海岸線と同様に湾入し、沖に2艘の小舟がみられるが、第8図以降では、海岸線は大きく海側に一直線に張り出すようになり、小舟もみられなくなった。一方、由比ヶ浜で地引網を引く漁師の人数に着目すると、第7図、8図では2人であったが、第11図では7人、第18図(図-2)では15人と時代を下るに従って多くなる傾向がみられた。また、我が国初の人工港湾である和賀江島は第11、18図のみで描写されていた。

道の描写変化に着目すると、第11、18図では道の名称が記述されるようになったこと、海岸方面への道の描写が詳細になったことが捉えられた。

以上の傾向より、近世鎌倉では鶴岡八幡宮や五山など社寺観光を中心に展開される一方で、時代の経過とともに和賀江島など海側の観光名所が加えられるようになったとみられる。さらに、由比ヶ浜における漁師の描写より、周辺

表-1 調査対象絵図の概要

	絵図名			
	第7 鎌倉絵図	第8 鎌倉絵図	第11 鎌倉絵図	第18 鎌倉絵図
発刊 年	元禄4	元禄8	正徳一享保 年間	文化一文政 年間
板元	斎藤七郎左 衛門	吉	大阪屋孫兵 衛	丸屋富蔵

キーワード 鎌倉絵図、近世、観光、鶴岡八幡宮、空間認識

連絡先 〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1 日本大学理工学部社会交通工学科 TEL047-469-5507

図－１ 第7 鎌倉絵図



図－２ 第18 鎌倉絵図



の漁村の賑わいが生活景として認識されていた様子が伺えた。

4. 鶴岡八幡宮門前の描写にみる空間認識の変容

全ての鎌倉絵図において、鶴岡八幡宮門前から由比ヶ浜にかけて、一の鳥居、中鳥居、大鳥居が描写されており、参道であるだんかつら(段蔓)は、第8図以降でみられた。

一方で、鎌倉のメインストリートである若宮大路の名称は一切描写されておらず、他の道についても第11図以降でのみ描写される傾向を捉えた。以上より、旅行者にとって鳥居の位置関係は鶴岡八幡宮までのおおよその距離を知るために必要なランドマークとして認識されていたが、道の名称は19世紀以前はそれほど重要視されていなかったと考えられる。また、第8図以降に特徴的に描写されている田畑(表－2、その他)は、鳥居間のスケール把握や道中が田園風景であるという、旅行者が空間認識を行う上で必要な情報を示していたと考えられる。同様の表現は、山林の樹木にもみられ、第7、8図では海岸等に松の記載があるのみだが、第18図では杉や銀杏などの描き分けがなされており、旅行者が樹種を頼りに道を辿ることを想定していたと類推される。

5. まとめ

鎌倉絵図における描写より、時代を経るに従って従来の社寺観光に加え、海岸そのものが観光対象となる傾向を捉えた。さらに鎌倉の中心ともいえる鶴岡八幡宮門前では、旅行者が歩く道そのものよりも鳥居の位置や鳥居間に広がる田園風景が空間認識の上で重要視される傾向が伺えた。

【参考文献】

1)澤寿郎：「鎌倉古絵図・紀行―鎌倉古絵図篇」,東京美術,1976.6
2)神奈川近世史研究会編：「江戸時代の神奈川」,有隣堂,1994.1

表－2 鎌倉絵図において描写がみられた名所・旧跡

名所・旧跡		絵図名			
		第7 鎌倉絵図	第8 鎌倉絵図	第11 鎌倉絵図	第18 鎌倉絵図
鶴岡八幡宮	八幡宮	◎	◎	◎	◎
	二王門	○	◎	○	○
	六角の井	○		○	○
	六本杉			○	○
	宮の下		○	○	
	頼朝社				○
	かぐら殿				○
	だんかつら		○	○	○
	一の鳥居	○	○	○	○
	大鳥居 (三の鳥居)	○	○	○	○
	大鳥居 (三の鳥居)	○	○	○	○
	大銀杏	絵	絵	絵	絵
	鐘楼脇の柳			絵	絵
五山寺	五山第一建長寺	◎	◎	◎	◎
	五山第二円覚寺	◎	◎	◎	◎
	五山第三寿福寺	◎	◎	◎	◎
	五山第四淨智寺	◎	◎	◎	◎
	五山第五淨妙寺	◎	◎	◎	◎
社寺	極楽寺			○	○
	本覚寺		○	○	○
	禪興寺				○
	明王院	○	○	○	○
	明月院	○		○	○
	淨光明寺				○
	薬王寺			○	
	光明寺	○	○	○	○
	妙法寺				○
	妙本寺	○	○	○	○
	長谷観音 (長谷寺)	○	○	○	○
	長勝寺		○		
	英勝寺			○	○
	九品寺				○
	辻のやくし			○	
	佐助谷イナリ				○
大仏	大仏(大湧)	◎	◎	◎	◎
井戸	十六の井	○	○	○	○
	鉄の井	○	○	○	○
	甘露の井	○			○
	扇井	○	○	○	○
	星の井	○	○	○	
屋敷	かじわら屋敷		○		○
	尊氏屋敷	○			
	十家五代屋敷	○			
海岸	海岸線の形状	絵(湾入)	絵(水平)	水平	水平
	漁師(人数)	絵(2)	絵(2)	絵(7)	絵(15)
山	和賀江島			○	○
	源氏山	○	○	○	○
	天照山			○	○
谷	天台山	○		○	○
	扇方谷(扇の谷)	○	○	○	○
川	梅が谷	○		○	
	いなせ川	○	○	○	○
	えびす川			○	
地名	ゑんま川			○	
	大町	○		○	○
	小町	○		○	
	由比ヶ浜	○			
	やまのうち			○	
切通し	小坪	○	○	○	○
	金沢切通し	○			
小計		37	31	46	46
その他	鶴岡八幡宮門前の田畑	記載なし	宮の下周辺から海岸にかけて参道の左右に点在	中の鳥居から三の鳥居にかけて一部点在	中の鳥居から三の鳥居まで参道の西側に記載
	道の名称	記載なし	記載なし	○	○
	樹木	山の一部に省略的に記載。稲村ヶ崎周辺に松の記載。	海岸周辺に松らしき記載	記載は少なく、参道に並列して記載。	杉・松・銀杏の識別が確認。地図全体の記載。
備考					御免鶴岡

【凡例】○:名称記載 ◎:名称に枠線または詳しい説明 絵:絵のみの記載